

7月の栽培管理について

向こう1か月の天候の見通し(近畿地方7月10日～8月9日:気象庁)は、曇りや雨が多く、気温は高めの見込みです。

現地巡回ではほ場を拝見した結果を踏まえ以下のことを提案しますのでご検討ください。

☆ほ場の排水対策 雨水が速やかにぬけるようしっかりと排水路を確保しましょう。

☆病害の防除の実施

6月に引き続き「べと病」「軟腐病」「疫病」「白絹病」が発生しやすくなります。晴れ間を狙って防除を行いましょう。特に、「疫病」「べと病」が発生した圃場では、秋に再発しやすいことから今のうちにしっかり防除してください。

注意：管内で複数個所のほ場で「疫病」「べと病」の発生を確認し防除を実施して頂きました。

☆梅雨中から明け後の高温期に葱はゆっくりとしか生育しません。高温期に無理に土寄せすると傷がつき、病気が発生しやすくなります。高温期は必要最低限の土寄せ量とし、葉の分岐点が埋まってしまうようにご注意ください。

☆雑草の根と葱の根は地中で絡み合っています。除草作業で株元の雑草を引き抜くと葱の根を傷つけてしまい、その傷口から病気が侵入し発病の「切っ掛け」となることから株元の雑草は引き抜かず地上部を刈り取ってください。

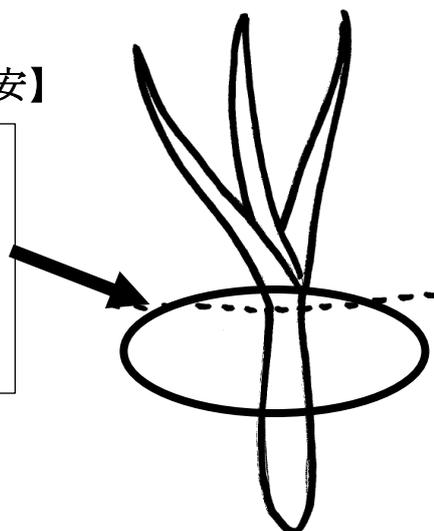
<防除例>

- ① リドミルゴールドMZ、プロポーズ顆粒水和剤、アリエッティ水和剤(べと・疫病等)
- ② オリゼメート粒剤、スターナ水和剤(軟腐病)
- ③ モンガリット粒剤、モンカット粒剤、リゾレックス水和剤、(白絹病)
- ④ スタークル顆粒水溶剤(アザミウマ類等)+バイオキーパー水和剤(軟腐病)

※バイオキーパー水和剤(予防剤)使用についてはJA等にお問い合わせください。

【高温期の土寄せの目安】

葉の分岐点以上に土寄せすると危険です。葉が柔らかいので傷つきやすく病気にかかりやすくなります。



この点線以上の土寄せは要注意!

<主な農薬一覧>

対象病名	農薬の名称	使用時期	希釈倍数使用量	本剤の使用回数	効果
疫病	アリエッティ水和剤	収穫3日前まで	800倍	3回以内	殺菌(治療)

対象病名	農薬の名称	使用時期	希釈倍数使用量	本剤の使用回数	効果
べと病	アリエッティ水和剤	収穫3日前まで	800倍	3回以内	殺菌(治療)
べと病	アミスター20フロアブル	収穫3日前まで	2000倍	4回以内	殺菌(治療)
べと病 注1	プロポーズ顆粒水和剤	収穫14日前まで	1000倍	3回以内	殺菌(治療)
べと病 注1	リドミルゴールドMZ	収穫30日前まで	1000倍	3回以内	殺菌(治療)

対象病名	農薬の名称	使用時期	希釈倍数使用量	本剤の使用回数	効果
軟腐病	オリゼメート粒剤	土寄せ時 収穫30日前まで	6kg/10a	2回以内	殺菌(予防)
軟腐病	ヨネボン水和剤	収穫7日前まで	500倍	4回以内	殺菌(予防)
軟腐病	カスミンボルドー	収穫14日前まで	1000倍	2回以内	殺菌(治療)
軟腐病	スターナ水和剤	収穫7日前まで	2000倍	3回以内	殺菌(治療)
軟腐病	バリダシン液剤5	収穫21日前まで	500倍	1回	殺菌(治療)

対象病名	農薬の名称	使用時期	希釈倍数使用量	本剤の使用回数	効果
白絹病	モンガリット粒剤	土寄せ時 但し、収穫14日前まで	4~6kg/10a	3回以内	殺菌(治療)
白絹病	モンカット粒剤	土寄せ時 但し、収穫30日前まで	4~6kg/10a	3回以内	殺菌(治療)
白絹病	モンカットフロアブル40	土寄せ時 但し、収穫30日前まで	2000倍	3回以内	殺菌(治療)
白絹病	ロブラール水和剤	収穫14日前まで	500~1000倍	3回以内	殺菌(治療)
白絹病	リゾレックス水和剤	土寄せ時 但し、収穫14日前まで	1000倍	3回以内	殺菌(治療)
白絹病	アフエットフロアブル	生育期 但し、収穫14日前まで	1000~2000倍	2回以内	殺菌(治療)

適用病害虫雑草名	農薬の名称	使用時期	希釈倍数使用量	本剤の使用回数	効果
アザミウマ類 注5	スタークル顆粒水溶剤	収穫3日前まで	2000倍	2回以内	殺虫
アザミウマ類 注5	ベネビアOD	収穫前日まで	2000倍	3回以内	殺虫

注1: 他の野菜で疫病の登録があるもの

農薬登録: 令和3年6月4日

注2: 農薬の使用にあたっては、必ず手持ちの農薬容器のラベルに従ってください。

注3: 高温時の散布は薬害が危惧されるため避けてください。

注4: 発病の状況に応じて、農薬は変更してください。

注5: ハモグリバエ類の登録あり。